

特別支援教育研究論文集

—令和3年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

小中学校における児童生徒のアセスメントに関する実践的研究
—各学校の特別支援教育を中心に担う教員の
アセスメント力の向上をめざして—

宮崎東諸県エリア アセスメント研究グループ

研究代表 教諭 田邊 美穂
(宮崎大学教育学部附属中学校)

令和4年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

要旨

宮崎県では、発達障害を含むすべての障害のある子どもの多様な学びに対応するため、県全域を障害保健福祉圏域に準じて、7つのエリアに分け、小・中・高等学校などの校内支援体制の充実及びそれらをつなぐ一貫した地域支援体制を築くことを目的とした独自の特別支援教育推進体制を構築している。宮崎東諸県エリアはその一つのエリアであり、本研究グループのメンバーは、エリア内の学校への巡回支援や、教員を対象とした研修企画などの中心的な役割を果たす教員である。現在、同エリア内においても、特別支援教育コーディネーターや通級による指導担当者等、各学校の特別支援教育を中心的に担う教員の人材育成や専門性の向上が課題となっている。特に、児童生徒の実態把握や保護者との課題の整理などの十分な協議がないまま支援が依頼されることもある。

このような状況から本研究では、エリア内の各学校の特別支援教育を中心的に担う教員が、校内の担任等から個々の児童生徒の実態を把握するためのツールの提案や研修会の開催を通して、各学校における指導・支援の充実に資する取組を行うこととした。具体的には、特別支援教育コーディネーター等が学級担任から児童生徒の状況を把握し、校内や校外の関係者・支援者と事例検討を行うためのツールとして、「聴き取りシート」を作成し、実際に事例検討を行った。令和3年1月の中央教育審議会答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』で示された「個別最適な学び」が、教師視点ではなく学習者視点から整理された概念であることを踏まえ、「聴き取りシート」作成の際には、教師視点に加え児童生徒の視点を意識して作成するようにした。また、エリア内の各学校の特別支援教育を中心的に担う教員を対象としてスキルアップ研修を企画・開催した。この研修では、アセスメントの基礎となる行動観察や児童生徒・保護者との面談を中心とした。

気になる児童生徒への指導・支援について、児童生徒の困難さへの配慮が課題となっているのか、教員の指導上の困難さが課題となっているのかが混在してしまうことがある。「聴き取りシート」の活用を通して、教員からの相談の趣旨を明確にする過程で、「先生が気になっていること、課題だと思うことは、児童生徒も同様に思っていますか？」というような質問に対して、「そのように思っていない」というような回答があることもあった。教員と児童生徒間の課題の不一致や、児童生徒自身の得意なことや苦手なことの理解の違いがあると考えられた。

児童生徒の自己理解を促すためには、丁寧な対話の積み重ねによる得意なことや苦手なことの気づきの促しが重要であると考え、教師の指導支援も同様に周囲の教員や関係機関の支援者等と子どもの実態について語ることが重要である。今後、作成した「聴き取りシート」が、子どもと担任等、担任等と支援者の共通のツールとして活用され、教員のアセスメント力が向上し、児童生徒の最適な学びにつなげていけることを期待したい。これからも本研究の取組を継続し、宮崎東諸県エリアから宮崎県の取組として広げていきたいと考える。

キーワード：アセスメント、「聴き取りシート」、スキルアップ研修